

# 「外部研究機関による寺院診断」の 実施について（ご案内）

寺院活動支援部 〈一般寺院担当〉

この度、宗門総合振興計画の事業内容「⑳寺院・門徒・地域の活性化促進のため、各寺院が置かれる現状の把握と自己診断を行い、その結果をもとに専門的な支援を行う」の取り組みの一環として、第11回宗勢基本調査の結果を用いて、希望する寺院に対しての「外部研究機関による寺院診断」を実施いたします。

第11回宗勢基本調査については、『宗報』2020年2月号から7月号に詳細に掲載いたしておりますが、今号では、寺院診断の概要や申請方法等について掲載します。

## 概要

「外部研究機関による寺院診断」（以下「寺院診断」という）は、宗門総合振興計画の取り組みの一環として、第11回宗勢基本調査（調査基準日：2021（令和3）年7月1日）に併せて実施いたします。

この寺院診断は、第11回宗勢基本調査の回答内容を外部研究機関である株式会社 大和総研が分析を行い、診断希望の寺院に対して、無償で診断結果をお届けするというものです。

## 寺院診断とは

～分析方法・フィードバックについて～

寺院診断では、個々の寺院における運営及び管理の実態をは

じめ、門信徒や地域の方々とのコミュニケーションの取りかた、外部環境変化への意識などを可能な限り「見える化」したうえで、分析を試みます。

その内容を「個別寺院診断シート」として簡潔かつ平易にまとめ、皆様のお手元にお届けいたします。あわせて、診断シートの理解を深める補助資料として、宗門内寺院の運営及び管理の現状や傾向等を簡易的に分析、わかりやすく解説した「寺院診断分析結果報告書」もお届けする予定です。

また、診断希望の寺院に対して診断結果を送付する以外にも、寺院診断におけるフィードバックの一環として、教区単位の研修会において、株式会社 大和総研より講師を派遣して調査結果をわかりやすく解説することを検討しております。講師派遣を希望する教区は別途ご相談ください。

本寺院診断は、1年間延期したことにより、新型コロナウイルス感染症に対応する設問も設け、大きな社会変化を踏まえた分析をいたします。将来にわたる寺院護持を、特に寺院運営及び管理の側面から考え直すきっかけとしてこの寺院診断をご活用いただき、具体的な行動に結びつける契機としていただきたいと思います。

なお、寺院診断を実施する株式会社 大和総研は、官公庁関連の受託調査や民間企業を対象としたコンサルティングを数多く手掛ける大和証券グループの調査研究機関であります。

## 寺院診断を希望する寺院へ

### 申請方法・留意点

寺院診断を希望する寺院は、第11回宗勢基本調査への回答の際に、調査票の最後の特設設問にてその旨をお知らせください。なお、追加の診断はできませんので、ご留意ください。

また、より多くの寺院に寺院診断を希望していただきたいという思いから、無償で実施いたしますので、是非とも積極的にご活用ください。

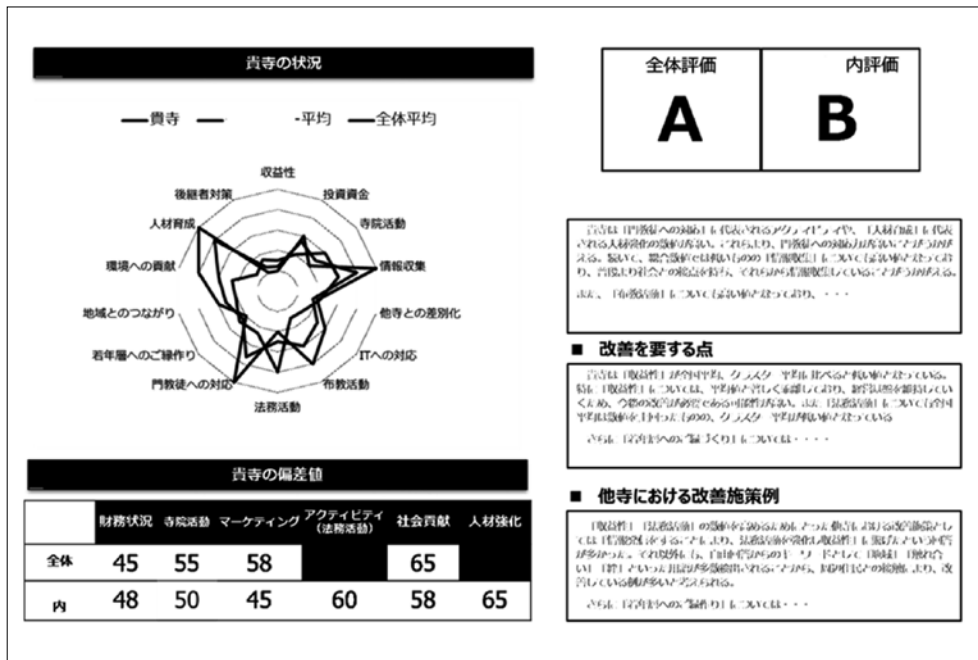
なお、診断結果の送付につきましては、大和総研より希望寺院宛に2022（令和4）年6月頃から順次発送することを予定しております。しかし、診断を希望する寺院が多い場合、診断結果の発送が遅れることも想定されますこと、あらかじめご了承くださいますようお願いいたします。

また、本寺院診断を含む第11回宗勢基本調査は、株式会社 大和総研とアドバイザリー業務契約を締結し、本寺院診断に関する業務及び第11回宗勢基本調査における集計並びに郵送・インターネット回答等調査実務を第三者機関である同社に委託して実施するため、調査票及びインターネットでの回答結果をはじめとした個別の情報について、宗門は一切把握することはできません。

さらに、本寺院診断における回答内容を含む、第11回宗勢基本調査で知り得た個別の情報について、外部に漏洩することが

しないよう、株式会社大和総研及び大和総研が関連業務を委託した大手調査機関において厳格に管理されます。

個別寺院診断シート（イメージ）



株式会社大和総研より

昨今は先の予測ができないVUCAの時代と言われます。

V（不安定・volatility）、U（不確実性：uncertainty）、C（複雑性：complexity）、A（曖昧さ：ambiguity）の4つを併せ持つ今だからこそ、社会的資本（ソーシャルキャピタル）としての宗教法人の重要性は増していると考えます。

一方、誰も予想し得なかった新型コロナウイルス感染症の宗教界への影響は計り知れません。ロックダウン（都市封鎖）の影響を強く受けた英国ロンドンのウエストミンスター寺院では「息をのむほどの損失」(BBC)が出ています。勿論、仏教界も例外ではありません。

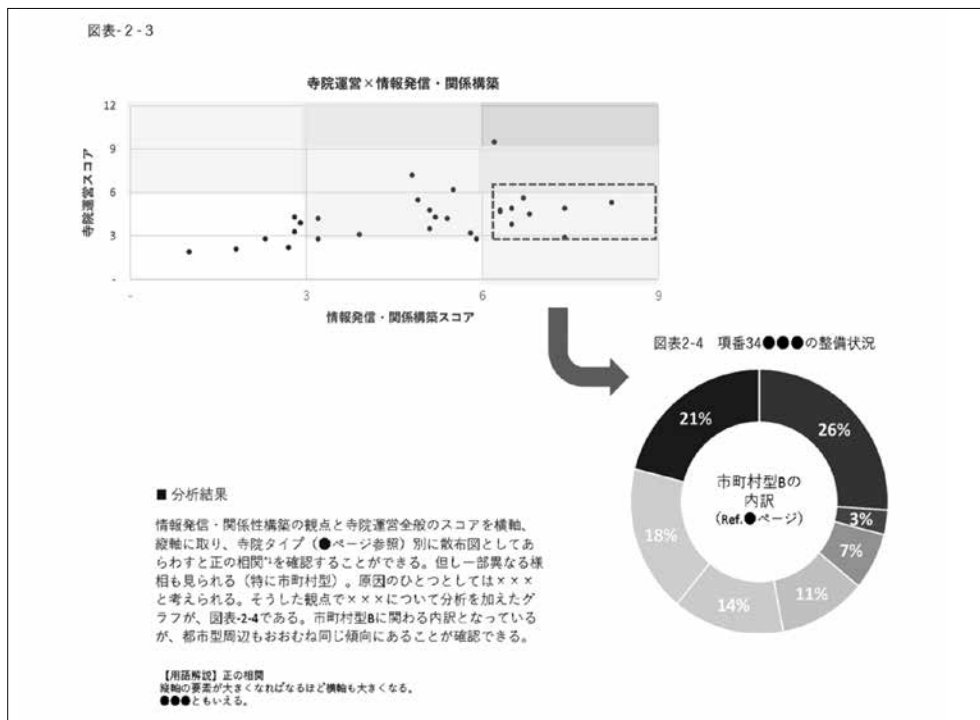
それだけではありません。国内における少子高齢化、信心の希薄化や門信徒の減少、そして後継者の不足など望ましくない環境変化は枚挙にいとまがありません。

ただ、だからこそ、今立ち止まり、将来の寺院護持を見据え、第三者の視点から個々の寺院の運営実態やコミュニケーションのあり方を冷静に見つめ直すことは有益ではないでしょうか。

今回の「外部研究機関による寺院診断」は画期的な取り組みであると同時に、宗門内の個別寺院にとりましても有意義なものとなると確信いたしております。

是非とも今後の寺院運営に本寺院診断をお役立ていただけますよう、よろしくお願いたします。

寺院診断分析結果報告書（イメージ）



あくまでも現時点におけるイメージであり、実際の診断及び分析結果に基づき変更する可能性があります。